

まえがき

C言語は1970年代初期に開発され、多くのプログラミング言語の基となっている。開発されてから40年以上経過しているが、今でも現役の言語であり、C言語プログラミングを解説した教科書は数多く出版されている。そういった状況のなか、あえて本書を執筆した。

なぜなら、C言語に関する知識やルールの解説は必要最小限に抑えて、プログラミングのアルゴリズムや考え方を中心に解説したほうが、学習する方にとって役に立つだろうと感じていたことが第一である。加えて、筆者の経験上、サンプルプログラムを1度作成しただけで、その項目のすべてが身に付くことはないので、経験をより多く積むために、数多くの問題に接して、アルゴリズムの多様さに接することができれば良いと感じていたこともある。

本書では解説する例題と各章末の演習問題をなるべく多く、時には誤ったプログラムも掲載して、プログラミングの様々な考え方に接することができるよう配慮した。したがって、一般的なC言語の教科書で取り上げる、ポインタ・アドレスや構造体等の部分は思い切ってカットした。その分、そこまでに達する内容は充実させることができたと思う。本書が扱うレベルまで習得できた人は、より上のレベルに行くのも容易であると思うので、カットした部分も難なく挑戦できるだろう。また一方で、初心者にとってイメージしやすい変数名を用いたプログラムを心掛けた。タイピングミスが生じやすい等のデメリットがあると指摘されることを承知で、あえてそのようにした。ちなみに、筆者自身こんな変数名を用いたプログラムの教科書を読んだことはあまりない。稚拙に見えるかもしれないが、初心者がイメージを持ちやすくするためと、ご理解いただきたい。

本としての良し悪しの判断は、読者の方にお任せしたい。ただ、C言語を真摯に学ぼうとしている方には、必ず「楽しく学べるC言語」になることを保証する。

最後に、本書の発行・編集に尽力くださった共立出版の寿日出男氏・中川暢子氏、原稿の校閲をしてくださった渡邊優子氏に深く感謝申し上げたい。

2015年12月

筆者記す